

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	良くなる	コンビニ（経営者）	・気温の上昇とともに売れる商品が多くなり、また、夏休みに集客率が上がるため売上が伸びていく。
		一般レストラン（経営者）	・個人客、家族客の動きが多少ではあるが良いため、この先の会社関係にも期待できる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・事業所等から引き合いの見積が少しずつ増えてきており、先が明るい感じがする。
		百貨店（営業担当）	・着物といった高額商品などの動きが出始めている。
		百貨店（販売促進担当）	・現状は報道先行で、アベノミクス効果は実感として乏しいが、県内において好調に推移し始めた企業もあることなどから、少しずつだが消費に回ることが期待できる。
		百貨店（店長）	・円安、株高による企業業績の上方修正が多くなってきたほか、一部メーカーの生産が国内回帰するとの情報もあり、賃金に反映されれば良くなる。ペースアップの期待感がある。
		スーパー（店長）	・天候の予測次第で上下するので、毎年、この月の見通しが難しい。暑い夏になるとの予測が多く、近隣の消費者の動向から判断すると上向きとなる。
		コンビニ（経営者）	・ゴールデンウィークの前半3日間をみると、売上が前年比110%、来客数が同102%と明らかにお金を使っている。平日も、たばこコーヒーだけだった人がガムを1品追加したりしている。やや良くなってきているようである。
		コンビニ（経営者）	・夏場の暑さとコンビニの相性という意味で、ある程度売上が見込めるといことが一つと、他店との競合関係もある程度落ち着いてくるのではないかと期待から、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・気温が大分高くなってきており、週末の天気が良いときは来客数が伸びている。
		衣料品専門店（統括）	・4月に入り、やや客の動きが出てきている。特に当店の専門である祭り用品については、夏の納涼祭に向けての準備も始まっている。しかし、郊外に大型ショッピングセンターがあるため、来街者はなかなか増えない。
		家電量販店（店長）	・家電リサイクル法施行から12年が経過しており、エアコンの買換え需要が発生している。冷蔵庫や洗濯機が同じように盛り上がりつつ良くなっていく。
		乗用車販売店（経営者）	・コスト削減などの締め付けで、第2次以下の下請業者の経営は楽ではないようであるが、そういうなかでも一部の企業で社員の所得は微増すると思う。内需拡大につながることを期待している。
		乗用車販売店（統括）	・例年4月は販売台数の落ち込みがあり、その後持ち直ししてくるのが恒例となっているため、今後は回復していく。
		乗用車販売店（販売担当）	・当地域は観光地だが、福島第一原子力発電所の事故による風評被害も徐々に消えて、観光客が戻ってきた。外国人観光客も戻ってきている。また、安い旅館などが平日でも7～8割、土曜日はほとんど満室である。このままゴールデンウィーク、夏休みに突入すれば、かなり景気が良くなるのではないかと。
		自動車備品販売店（経営者）	・来客数並びに周辺道路の交通状況などからすると、多少、人の動きが活発になっている。
		住関連専門店（経営者）	・趣味の品や行楽用品の販売実績が向上しつつある。
		スナック（経営者）	・客の雰囲気良くなってきている。皆明るくなってきており、よく飲むようになっている。
		観光型ホテル（営業担当）	・今年は地域挙げての周年記念イベントが数々行われ、それに伴い様々な告知も実施されているため、多少の期待感を持っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・輸出業界では大分企業も活発化していくのではないかとと思うが、まだまだ地方では影響が少ない。3か月先は現状のままではないかと。
		旅行代理店（経営者）	・今の上昇傾向の流れで、これから更に良くなると考えている。来客数の動き、客単価の上昇等、大変期待している。
		旅行代理店（所長）	・円安、鳥インフルエンザなど、海外に不安要素があり、終息するまで国内基調で推進すると思う。学生団体のシーズンにも入るので、客の動きは更に活気を帯びてくる。
		旅行代理店（営業担当）	・ゴールデンウィークを迎え、国内、海外旅行共に取扱量が増えることが予想される。
		旅行代理店（副支店長）	・ゴールデンウィークを含めそれ以降の受注や商談が増え始めている。個人客も国内旅行の商談が増えてきており、夏に向けて受注が増えそうである。企業については、中国以外への海外出張も順調で、社員旅行の商談も出始めてきている。

	通信会社（営業担当）	・まだ景気回復の実感を抱くまでには至っていないため、例年より若干消費が高くなる程度に落ち着く。
	テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィークの国内旅行の増加や開園記念イベントなどにより期待ができる。
	ゴルフ場（業務担当）	・今月は土、日の天候が不順だったせいか、入場者の確保にやや苦慮しており、前年比ほぼ横ばいである。単価はある程度維持している。物品の販売等も前年並みに推移をしている。また、向こう3か月については、会員の補充募集関係で結構引き合いがあり、入会を希望する人の声も聞こえている。2、3か月先の予約の引き合いもきている。先行きの景気の明るい兆しを感じて消費につながっていくのではないのか。
	その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	・両替機を利用する客のなかで、1万円札を使う客が結構増えつつある。しかし、単価が上がっているわけではなく、おつりとして持って帰ってしまうという状態である。アミューズメントは景気が悪くなった時も、比較的遅い段階まで景気の落ち込みを感じずにきたが、これから景気が良くなっていくなかでも、少し遅れ気味に上がってくる。3か月先を見通すのであれば、間違いなく良くなる傾向は現れてくる。
	美容室（経営者）	・これから先、地震や北朝鮮のミサイル等のマイナス外部要因がなければ、少しずつ来客数が増えてくる。
	設計事務所（所長）	・建築の場合、9月末までの契約であれば消費税が現状のままである。そのため、それまではとりあえず良い状態が続く。
	住宅販売会社（経営者）	・実際に首都圏では、人気のある地域の地価が上昇傾向にある。地方まではまだ先ではあるものの、地価上昇の前から動きが活発化してきている。需給関係に動きがあることは確かであることから、良くなると予想される。
	住宅販売会社（従業員）	・全事業が好調だが、原材料の高騰や技術者不足が深刻となっており、施工が追いつかない状況が続いている。欲を言えば、更に強力にエネルギー問題に取り組んでほしい。
変わらない	商店街（代表者）	・良くなることを期待したいが、選挙で一時的に足踏みするような気がする。
	商店街（代表者）	・毎年新学期になると、小学生は臨海学習、中学生はキャンプや登山が始まり、また、水泳用品の販売も始まるため、何とか夏の間はいろいろと販売があって、前年並と思っている。
	商店街（代表者）	・マスコミ報道に踊らされているのか、アベノミクスの実感がないのが現状であり、中小零細企業に三本の矢が届くのを消費者は待っているようである。
	一般小売店 [精肉] (経営者)	・物価は上がり始めているが、給料はまだ上がる見込みがないため、客は買物を控えている。アベノミクスの影響がこちらにもきてくれればと思っている。
	一般小売店 [乳業] (経営者)	・地方の一般消費者の消費意欲が良くなる要件はまだ見えてこない。
	一般小売店 [青果] (店長)	・当地域で大企業の合併が7月にある。その合併を見てからでないと、この街の今後の景気については答えられない。
	百貨店（営業担当）	・円安による輸出企業の景気に期待感はあるが、実際、生活必需品の値上げも進んでいくため、総体的にはそれほど極端に良くなるとは思えない。
	百貨店（販売促進担当）	・円安、株高との報道が目立つが、实体经济は依然停滞したままのように感じる。向こう2、3か月で消費行動が改善するとは思えない。
	百貨店（店長）	・政府の支持の高さや、円安、株高などの環境がしばらくは続くと考えられ、少なくとも夏まではこの好況感が維持できる。
	百貨店（店長）	・中小企業に円安の恩恵はない。景気が上向くにしても、地方がプラスになるには時間がかかる。
	スーパー（店長）	・曜日ごとの来客数は、数か月間変化がない。
	スーパー（総務担当）	・株高の上昇、大手企業の賞与の満額受給、輸出製造業の受注拡大に期待する部分はあるが、輸入品の価格上昇、消費税増税のマイナスと併せてある。
	スーパー（統括）	・消費マインドの改善だけでなく、わずかではあるが実質売上高が前年同期比で増加してきており、市況にブレーキがかかる要素もなく、しばらくはこの傾向が続くとみている。
	スーパー（経営企画担当）	・株高や大手企業の好決算、百貨店の売上回復が報道されているが、必需品を扱う当業界ではその恩恵はすぐには表れず、むしろ小麦粉やガソリンの値上げなどのマイナス要因が心配である。
	コンビニ（経営者）	・今までは来客数が少し落ち込んでいたが、元の数字に戻りつつある。ただし、客単価がやや低下しているため、今後も変わらない。

コンビニ（店長）	・街中から外へと客の動きがますます激しくなっている。特に土日、祭日が影響を受けている。何とか現状維持をしたいところである。
コンビニ（店長）	・当地域での競合店の出店などは一応落ち着いたようなので、今後は現状とあまり変わらない気がする。来客数の減少理由が今一つ把握できておらず、特に夕方から夜にかけての減少の理由がはっきりすれば若干回復すると思うが、特別変わらない。
衣料品専門店（店長）	・円安や株高により景気回復の期待はあるものの、売上の減少傾向は続いている。消費者の収入が増えない現状と、食品や燃料費の上昇、また、消費税増税による負担増が控えているため先行きが不安であり、悪い状況は続く。
衣料品専門店（販売担当）	・身近なところでの値上げが進み、これから加速するようなことがあれば悪くはなると思うが、今のところ、このくらいだったら仕方がないという忍耐の部分がうかがえる。そのため、今月と比べてほとんど変わらない。
家電量販店（営業担当）	・産業用の太陽光発電は魅力があり動きがある。売電価格も36円となったが好調である。しかし、電力会社の対応が悪いことを懸念している。
乗用車販売店（経営者）	・このままの状況がしばらく続く。
乗用車販売店（経営者）	・来年の消費税増税を前にした住宅関連の動きも地方ではあまり見られない。景気が良くなるのはもう少し先ではないか。
乗用車販売店（販売担当）	・世間ではアベノミクスで景気が良いと言われているが、我々販売店はずっと変わっていない。
乗用車販売店（店長）	・3か月くらいでは、今の状況は変わらない。
乗用車販売店（営業担当）	・少しずつではあるが、車種を絞り込んでの台替え相談が出ている。しかし、全体的にはまだまだ低調である。
住関連専門店（仕入担当）	・生活必需品、消耗品への節約傾向は今後も継続し、デフレ傾向もまだ当分続くと予測する。
一般レストラン（経営者）	・ここ何か月か客単価もそれほど上がらず、集客も伸びていないため、売上がほとんど変わらない。なかなか売上が増える要因も少ないため厳しい。
スナック（経営者）	・テレビのニュースでは景気の良い話が多いが、なかなか地方には回っている様子がない。また2～3年の長い闘いだと思う。本当に大都会とは違っている。
観光型旅館（経営者）	・4、5月の予約状況が、前年よりやや悪い。
都市型ホテル（支配人）	・当地域では、まだまだ福島第一原子力発電所の事故による風評被害の影響がある。また、当地域の空港ではメインの国際線が現在運休していることもあり、外国人客や空港を利用する客の宿泊はまだ入ってきていない。
都市型ホテル（営業担当）	・このところ良くなってきていると感じるが、3か月後は更に伸びるところまではきていないと思う。実際、企業は潤ってきており、様々な良い要素もあるが、個人までその波及があるかが気になるところである。
タクシー運転手	・電車から降りてくる人は大勢いるが、タクシーを利用する人がいない。また、深夜の人通りも全くない。地方は駄目である。
タクシー（経営者）	・不景気感があり、この先も変わらない。
通信会社（経営者）	・解約数や休止数が昨年と同様の傾向であるため、すぐに状況が良くなるとは考えにくい。
通信会社（総務担当）	・円安の影響により、仕入等の材料費の値上がり懸念される。
通信会社（局長）	・個人消費の現場では、円安、株価上昇の効果が出ておらず、景気回復の実感が無い。
ゴルフ場（支配人）	・新緑の季節を迎えゴルフシーズンとなるが、プレーヤーの財布のひもは固い。値引き交渉は常にある。現在、周辺のゴルフ場数が多く、需要と供給のバランスが悪いので、この業界の行く末が案じられる。
競輪場（職員）	・全国発売の記念レースの売上額にそれほど変化がみられない。
その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・定期契約については最近伸びているが、一方で解約もほぼ同数となっている。また、予約台数についてもほぼ同じであるため、横ばいで変わらない。
その他サービス〔イベント企画〕（職員）	・世の中の動きとしては景気が上向きの風潮だが、地方においてはそのような感じは受けない。
設計事務所（所長）	・先期の受注で忙しくはなるが、景気はさほど変わらない。
住宅販売会社（従業員）	・株高やボーナス増などの一部の景気の良い報道に刺激されて、従来よりお金を使おうという機運が高まっているように感じる。

		住宅販売会社（経営者）	・昔のバブル期もそうだが、東京が良くなってから2、3年後でないと地方には波及しない。恐らくここ半年や1年では全く変わらない。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・大型店が来月閉店するため、大型店同士の売出しが激しくなり、一層、街や路面店への買物客が減る。周辺の小売店はますます厳しい。
		スーパー（商品部担当）	・電気料金の値上げや一部の小売商品に値上げ傾向がみられ、消費動向が上向き雰囲気を感じられない。
		乗用車販売店（従業員）	・受注量は横ばいで推移しているが、コンパクトカーが増加しているため、収益面では減少していく。
		一般レストラン（経営者）	・円安による価格上昇に対し、一般消費者の飲食業界に対する考えは変わらない。むしろ厳しくなっているようにも思える。今は当業界にとって、ある意味で以前より悪い状況である。
		一般レストラン（経営者）	・例年、ゴールデンウィークを過ぎると急激に客が減る傾向であり、本年も変わらないのではないかと。
		スナック（経営者）	・ゴールデンウィークで、客の入りが毎年悪くなっていることを考えると、来客数は減少する。
		旅行代理店（従業員）	・給料が上がらないなか、公共料金を含め、先に値上げが進んでいるためである。
		タクシー運転手 通信会社（経営者）	・他地域から同業他社が進出してきたため、やや悪くなる。 ・円安で仕入コストが下がらず、利益がひっ迫している。また、業者間での顧客の取り合いで競争が激化し、更に状況は悪化している。アベノミクスの効果が浸透するには、2～3年はかかる。
悪くなる		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・福島第一原子力発電所の事故により、山菜、山椒の実や葉が食べられない。当地域で取れる魚も食べられない。そういうことを考えると、良くはならないような気がする。残念だが、その対策を考えないといけないのではないかと。
		スーパー（経営者）	・競争激化による価格の下落のため、悪くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・円安による急激なランニングコストの増加を、売上でカバーできない。
		通信会社（経営者）	・この状況下では、地方での景気回復はいつになるのか皆目見当もつかない。中央からの波及があるにしても、それを肌で感じられるのは、いつも5～10年後である。そこまで持ちこたえるエネルギーは、今の地方にはない。
企業動向 関連 (北関東)	良くなる	食料品製造業（営業統括）	・円安が安定してきており、国内の旅行者の増加がみられる。それに伴って、ワイナリーでは体験型の工場見学者が更に増加して売上高も増加すると期待している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向け油圧建機の仕事でスポット受注が入ってきている。そのほかの分野に関しても、仕事量が減るとの情報が入っていない。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・リース会社を使わない自社製品の直接レンタル、リース契約が今年には大幅に入っている。5年で切れるレンタル、リースも4か所で装置を入れ替えて再契約となっている。
やや良くなる		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安や株高が、我々、中小企業にも少しずつ影響してくるのではないかと。
		電気機械器具製造業（経営者）	・5月より、客先の新機種の本格的な生産が始まるのを期待している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・取引先のほとんどが低迷していたが、この2か月間くらいは、仕事量、受注量等が徐々に増えてきている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・アルミ部品などの原材料、電気料金、ガス代などが上昇傾向に入ってきており、さらに、オートメーション化の自動車メーカーからのコストダウン要請が4月から始まり、収益面は非常に厳しいが、生産の3か月見通しでは、非常に高水準の受注量になっているため、量が増えることによって収益面を少しカバーできるのではないかと。良い方向に向かっていく。
		建設業（総務担当）	・ゴールデンウィーク明けから発注も動き出すと考えられるので、政権交代、補正予算の効果が顕在化していくことに期待したい。
		金融業（調査担当）	・非製造業でマインド面の改善が先行しているが、製造業の受注が改善していくことが、景気全体が持ち直しに向かうための条件となる。急激な円安も、原材料価格の上昇によりマイナスの影響が生ずる可能性もある。
		金融業（役員）	・今後、建設業の一部に公共工事が出てくるなかで、特に当地域は県や国からの受注が増えることになり、そのインパクトがかなり大きくなる。
		広告代理店（営業担当）	・販売促進予算という一番削減されるようなものが、積極的に投下されている。2、3か月先に納品予定である現在の受注をみても、悪くはならない。

	その他サービス業〔情報サービス〕(経営者)	・経営者のマインドは、間違いなく変化してきている。あとは、受注量がどう増加するか見極めたい。今しばらく時間が必要である。
変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	・新商品を投入するなど、種々展開はしているものの、売上につながる要素も少なく、先行きは不透明である。
	窯業・土石製品製造業(総務担当)	・良くなるのではないかと期待している。
	金属製品製造業(経営者)	・注文が多くなりそうな話はあるが、実際には多くないので、今までと変わらない。
	一般機械器具製造業(経営者)	・受注は2月に底を打ち、それ以降ほとんど変化がない。ただし、採算割れをしているため、人員整理をしなければならない。
	電気機械器具製造業(経営者)	・理由は分からないが、景気が良くなっているという話とは反対に、当社はどんどん仕事が減っていき、厳しい状況である。受注の増加は見込めないため、既存の取引先の新しい仕事を取るべく今一生懸命に努力をしている。しかし、取引先でも全般的に販売量が少なく、増産の予定はないということである。
	電気機械器具製造業(経営者)	・若干の仕事の話は出ているが、まだ成約まで至っていない。
	電気機械器具製造業(営業担当)	・毎日、円安、株高の報道がされているが、当社の現在の受注量、販売高には影響がない。
	その他製造業〔宝石・貴金属〕(経営者)	・売上は期待できるとは思うが、材料費の高騰から利益の確保が難しい。
	輸送業(営業担当)	・アベノミクス効果による株高等の傾向で景気が回復している状況で、物量的に購買意欲は高まっている。しかし、業界的には円安による燃料コストの負担により、どうしても利益の確保が厳しい状況が続いている。
	通信業(経営者)	・アベノミクスで物価だけが上昇して所得が向上しなければ、消費は増えない。果たして消費者がどこまで耐えられるか、疑問を感じ始めてきた。
	金融業(経営企画担当)	・製造業においては、円安により輸出が伸び、小規模零細事業者にも波及してくるとの期待感や、建設業においても政権交代による公共工事の増加や、消費税増税に伴う駆け込み需要への期待感を取引先が持っていることなどから、景気はやや上向く。
	新聞販売店〔広告〕(総務担当)	・ある建設会社の社長の話では、補正予算が組まれ、この先、県、市の仕事が見込めると思うが、それは一部の業者に限られ、反対に民間企業の賃上げが消極的なので、景気回復に明るい材料はあるものの、消費者の購買意欲の向上はまだ先になるだろうとのことである。
経営コンサルタント	・中期的な業績改善を見込んでの設備投資などが散見され、やや動きがあるが、まだまだ経済全体から来る消費や投資への刺激が欲しいところである。	
社会保険労務士	・毎年多少でも賃上げしていた事業所は今年も賃上げしたが、毎年上げてこなかった事業所は今年も賃金は据え置きである。	
やや悪くなる	食料品製造業(製造担当)	・7月以降の穀物の単価が、今の円相場だと非常に厳しい。この状態だと、販売数量が横ばいでも原料高騰のため内容が良くない。
	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・相変わらずの見積、低価格競争である。少しでも安いほうに客は行く。
	化学工業(経営者)	・昨年の電気料金の値上がり分は価格転嫁できなかった。今後の電気料金の値上がりで仕入材料の値上げが予想されるため、更に収益が圧迫される。
	不動産業(経営者)	・周囲を観察すると、購買意欲の上昇が偏った分野にしか影響を及ぼしていないようである。経済の流れが、生産力や次世代に還元されない流れになっている。
	不動産業(管理担当)	・業務委託を受けられるように交渉しているが、受注できたとしても業務内容は従来と変わらず、当社の利益が減少する額で受注せざるを得ないため、受注量は元に戻っても、売上、利益は減少する。
悪くなる	建設業(開発担当)	・新年度が始まったばかりで公共事業については今のところ大きく期待はできない。とにかく営業力を強化し、公共工事に頼らず、民間工事にウエイトを置きたい。そのため、こまめに設計会社を訪問し、受注に力を注ぎたい。
雇用	良くなる	-

関連 (北関東)	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・ゴールデンウィークを前にしての夏物の衣料品や食料品関係での材料調達での伸びがあった。夏に向けては、まだ見通しの分からないところが多いが、住宅関係や電機自動車部品関係、携帯電話の部品など、こういった生産で幾分募集が増えたとみている。期待は半分くらい持っており、周辺企業もそのような動きと思われる。
		人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正など規制強化の話題から、円安傾向の持続、株高など明るく前向きな話題へと転換している。
		人材派遣会社（管理担当）	・携帯電話のアフター修理業務と麺食品の派遣が増える予定である。
		職業安定所（職員）	・アベノミクス効果に期待感がある。
変わらない		人材派遣会社（経営者）	・今年に入ってあまり仕事がない。予定していた仕事が突然なくなったり、今のところあまり忙しくない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・当分の間、周辺企業の景気回復は見込めない。むしろ物価上昇により値上がり商品などが多くなると景気が低迷する。
		学校 [専門学校] （副校長）	・学校卒業予定者にとって、今ある求人はミスマッチの状況である。景気の好転も含めて中小企業における採用計画がしっかり組まれるようになれば、景気の上昇といえるようになるのではないかと。
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・企業から、中小企業緊急雇用安定助成金についての問い合わせが増えている。
		職業安定所（職員）	・ここ3か月の新規求人状況について前年同月比でみると、1月は1割減、2月はほぼ横ばい、3月は5.6%減となっている。対して新規求職者数は、管内主要企業及びその関連企業で4～6月にかけて早期退職の追加実施があり、さらに、例年4月は新規求職者が増加してくるため、4月以降増加が見込まれる。また、管内の複数の企業での合併や主要企業での一部事業の経営統合などもあり、こうした影響から今後の仕事量の減少を心配をする声が企業訪問時などに聞かれる。新規求人関係は厳しい状況がもうしばらく続く。
	悪くなる	-	-